

グローバル化した 世界と日本のすすむ道

しみず ひでゆき
清水 秀行

日本教職員組合・書記次長

技術の進歩によって地球は小さくなった。マーケットが一つになった。世界はグローバル化＝平準化した。しかし、格差の拡大と豊かさの中での貧困は解消されない。台風や竜巻など地球規模で発生する自然の猛威そのものは抑えることはできないが、人間がつくったものなので世界は変えられるはずである。資源やエネルギー、平和・人権・環境など国際問題と国内問題が分けられなくなっている。欧州連合（EU）やアフリカ連合（AU）・東南アジア諸国連合（ASEAN）など地域統合もすすめられている。国境を守ることから人間を守ること、人間の安全保障が課題となっている。

地球規模の課題として水資源の枯渇も懸念される。処理されずに海の底へ沈むゴミも漁獲量減に影響しているのではないだろうか。日本は出生率の低下によって人口増加に歯止めがかかり、医療の進歩とともに少子高齢化は益々すすんでいるが、70億に達した人口と食糧問題も深刻だ。貧困や高い飢餓率、内戦や紛争、保健・医療・教育の面で解決されていない課題は多くあるが、開発途上のアフリカの経済成長は著しい。今は欧米や日本よりも中国の方がはるかにAU諸国に与える影響は大きい。日本も多額の政府開発援助（ODA）を行ってきた。だれがODAを受け取るのかが争いのもとにもなってきたが、先進国の低成長もあって現在は支援額が減ってきた。多額の援助だけが支援でないことは言うまでもない。国際社会が「平和の定

着」「経済成長を通じた貧困削減」「人間中心の開発」の3つを中心にアフリカの自立を支えるため、アフリカ自身が必要とするものを支援していくことが大切である。同時にアフリカ自身の自助努力を求めることも重要である。

食糧生産の増加は人口増に追いつかないから、いずれ世界は飢えるという「マルサスの法則」は現象化していくのであろうか。国際社会の支援を基盤として平和を構築し貧困を脱し、品種改良や農地の有効活用など人類が数千年かけてやり遂げた食糧増産技術と治療技術・医療機会の普及によって飢餓を克服し命を守る。人類の英知と共助、和解と協調によってどんな困難も乗り越えられると思う。そのことを学び、考え、自分の未来につなげていくのが教育だと思う。そして、教育は一人ではない。ともに学び、考え、未来を築いていく、そんな人と人との交流が何よりも重要で日本の若者にもアジアの同世代の人との交流を大切にしてもらいたい。

イギリスの歴史学者E・H・カーは『歴史とは何か』の中で「歴史とは現代と過去との対話であって、過去の事実のみを語るだけのものでもない。記録を著した人の時代背景があり、その人に大きな影響を与えた社会事象があったはずで、読む者はそれをとらえた上で過去の歴史を現在から考え、人類の未来に何をつなげていくのかを常に意識する必要がある」ということを述べている。私たちも世代を超えて歴史の真実を語り継ぐ責務があると思っている。